

大学名 東京医科歯科大学/東京工業大学

第69号 特集テーマ「国立大学のこれから」

表題 大学統合による地球と調和したウェルビーイングな未来社会の創出への貢献

かつて高度成長期の日本では、「科学技術立国日本」が国民の共通目標でしたが、その推進役となるべき国立大学の研究力は停滞し、歩調を合わせるかのように日本経済も低迷し「失われた30年」といわれています。この負のスパイラルから抜け出すために、東京医科歯科大学と東京工業大学は、2024年度中を目途に統合を目指す基本合意書を締結しました。(図1)

今回の統合は、新たな地球規模の課題を解決するために、両大学が積み上げてきた実績と知を結集することで、社会に貢献できる大学へとさらに進化できるという認識に基づくものです。

統合大学（東京科学大学(仮称)）が目指す姿として次の4つを掲げ、実現に向けた検討を進めています。

1. 両大学の尖った研究をさらに推進
2. 部局等を超えて連携協働し『コンバージェンス・サイエンス』を展開
3. 総合知に基づき未来を切り拓く高度専門人材を輩出
4. イノベーションを生み出す多様性、包摂性、公平性を持つ文化

両大学では、世界で初めて術者に触覚を与える手術ロボットを開発(図2)するなど、以前から医工連携を推進していますが、基本合意書締結後、研究者間の交流が促進し、50を超える共同研究が始動しています。

統合大学においては、理工学、医歯学、さらには情報学、人文社会科学などを収斂させて獲得できる総合知に基づき展開する科学である『コンバージェンス・サイエンス』により、未来課題の発見に挑戦し、ウェルビーイングな未来社会の創出に貢献する国立大学を目指します。



図1 統合に向けた基本合意書締結（2022年10月14日）
<https://www.titech.ac.jp/news/2022/065089>



図2 世界初、両大学で共同開発した「触覚」を有する手術支援ロボットシステム「Saroa サージカルシステム」を用いた手術に成功
<https://www.tmd.ac.jp/medhospital/topics/230703/index.html>



<参考>

研究者・学生の交流会（MeetUp）

<https://www.tmd.ac.jp/news/20230314032522/>

